

## 8月23日(水) 全校集会 校長講話

おはようございます。

昨日までの夏休み、いかがだったでしょうか。クラブ活動中心だった人、家族と旅行に行くなど普段ではできない時間を過ごした人、あるいは特に3年生ですが、一心不乱に勉強した人、さまざまだったと思います。通常の学校生活から離れたこの1ヶ月弱の休みの中で、次のステップに繋がるものが見つかっていれば幸いです。

さて、今月12日のことです。アメリカ合衆国のヴァージニア州シャーロットツビルという、人口5万人の小さな町で起きた事件、テレビや新聞で見たでしょうか。群衆の中に猛スピードの車が突っ込み、さらにバックし、大勢の人を傷つけました。車に轢かれた人は何人もいましたが、そのうちひとりが亡くなっています。猛スピードの車で突っ込んで行けば、その後何が起ころかわかるはずですが、ドライバーはすぐに逮捕されましたが、その容疑は殺人罪です。

なぜこのような凄惨な事件が起きたのか。

この日、白人至上主義を掲げる団体が集会を開きました。白人至上主義、この言葉からこの団体が何を指すのか、誰を批判し否定するのか、ここにいる生徒諸君には分かるはずで、す。多様性を認め、自由と平等を謳って建国されたアメリカ合衆国です。当然、白人至上主義団体の集会に反対する人々が大勢集まり、白人至上主義を訴える集会に抗議する集会が開かれたわけです。そしてこのふたつの集団が接触し小競り合いとなり何人もの人が傷つく中で、白人至上主義者のひとりであった20歳の男が、自分と意見を異にする、すなわち多様性を認め人種差別を許さないと主張する人々の中に車で突進していったのです。

この事件を見たアメリカ国民はもちろん、全世界の人々から人種差別に反対する声が上がりました。その中で、南アフリカ共和国の元大統領、ネルソン・マンデラの言葉を引用し人種差別反対の声明を出したバラク・オバマ前合衆国大統領のTwitterが話題になっていますので紹介します。

No one is born hating another person because of the color of his skin or his background or his religion.

People must learn to hate, and if they can learn to hate, they can be taught to love. For love comes more naturally to the human heart than its opposite.

肌の色や出自や信仰の違う他人を、憎むように生まれついた人間などいない。

人は憎むことを学ぶのだ。そして、憎むことを学べるのならば、愛することも学べるだろう。

愛は憎しみよりももっと自然に、人の心に根付くはずだ。

人を生まれた瞬間から差別する心を持ってなどいない。憎むことも愛することも後天的、つまり育つ中で身につくこと。そして、憎むことより愛することの方が我々の心の中には自然に入ってくるものなんだ。このように解釈すればいいかと思います。

12 日のシャーロットビルの事件とマンデラ元大統領が残してくれた言葉の意味について、我々もしっかりと考えなければならないことだと思います。人間は憎しみの感情を持つ生き物であると同時に、愛する感情も持ち、そして愛する感情が憎しみのそれを上回るようにしていかなければならないのです。

さて、この言葉を聞いて皆さんはどう思いましたか。人種差別など、海の向こうの遠いアメリカの話と思っていないですか。

まずはこの天白台において、憎しみの感情よりも愛する感情をたくさん持てるように意識してほしいと思います。そして皆さんがこの天白台を巣立ち、全国いや全世界に旅立っていったときに、憎悪の感情以上に愛する気持ちや愛する感情を広げていけるように意識してみてください。少しずつかもしれないが、自分の周囲が差別のない状態になっていくと思います。

日本の、そして世界の事件やできごとに目を向けて、自分たちが何をしなければならないか、自分たちに何ができるのか、少しずつ視野を広げていくことを皆さんにお願いして、全校集会の講話を終了します。

まだまだ暑い日が続きますが、暑さに負けないように暑さをはね飛ばせるように頑張っていきましょう。